

2月9日(土)

中ホール

- 15:00 ニッポンの嘘 報道写真家 福島菊次郎 90歳 (114分★)
 18:00 異国に生きる—日本の中のビルマ人— (100分★)

料金	1回券	2回券	1日券 (10,11日)	フリーパス
前売	900円	1,600円	3,000円	6,000円
当日	1,000円	1,800円	3,500円	—

自由席/整理番号順入場/入替制/高校生以下500円(当日1回券)

- 当日券は会場にて10:00より販売します(2月9日(土)は14:30から)。
- チケットは鑑賞当日、入場整理番号とお引換ください。
- 開場は各回15分前(各日初回のみ30分前)を予定しております。
- 前売券は浦安市民プラザ、浦安市文化会館、e+(イープラス)にて2月8日(金)まで販売します。

2月10日(日)

中ホール

- 10:30 鬼に訊け 宮大工 西岡常一の遺言 (88分)
 12:30 よみがえりのレシピ (95分)
 14:30 モンサントの不自然な食べもの (108分★)
 17:00 **無料** 関連企画・映像を通して知る「海苔のまち浦安」
 18:40 フタバから遠く離れて (96分★)

小ホール

- 10:30 沈黙の春を生きて (87分)
 12:30 南の島の大統領—沈みゆくモルディヴ (101分)
 14:30 ニッポンの嘘 報道写真家 福島菊次郎 90歳 (114分)
 17:00 隣る人 (85分)
 18:40 小さな町の小さな映画館 (105分)

2月11日(月祝)

中ホール

- 10:30 隣る人 (85分★)
 12:40 小さな町の小さな映画館 (105分★)
 15:00 **無料** シンポジウム・なぜドキュメンタリー映画祭を続けるのか
 16:40 沈黙の春を生きて (87分★)
 18:45 南の島の大統領—沈みゆくモルディヴ (101分)

小ホール

- 10:30 フタバから遠く離れて (96分)
 12:40 モンサントの不自然な食べもの (108分)
 15:00 花はどこへいった (71分★)
 16:40 よみがえりのレシピ (95分)
 18:45 鬼に訊け 宮大工 西岡常一の遺言 (88分)

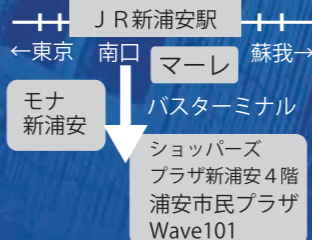
- ★の回はゲスト来場予定(上映終了後にトークイベントを開催)。
- 上映スケジュール、トークイベントは変更になる場合があります。



浦安ドキュメンタリーオフィスは、社会的に意義のある国内外のドキュメンタリー作品の上映・普及および上映を通じた人的交流の促進を目的に、浦安を中心に活動を行なっています。

Tel: 070-5454-1980 E-mail: info@urayasu-doc.com
 HP: www.urayasu-doc.com 映画祭 twitter: @UDFF2011
 Facebook: www.facebook.com/urayasadoc

*映画祭の最新情報は、ホームページまたは Facebook ページをご覧ください。



浦安市民プラザ Wave101

JR新浦安駅南口から徒歩3分
 ショッピングプラザ新浦安4階
 *駅からはベネッセホールデッキの歩道を歩くと便利です。

Tel: 047-350-3101

第2回

うらやす ドキュメンタリー 映画祭

URAYASU DOCUMENTARY FILM FESTIVAL 2013

2013年2月9日(土) 10日(日) 11日(月祝)

浦安市民プラザ Wave101 中・小ホール



真冬こそ映画。ドキュメンタリー。
 よりすぐりの **11** 作品を一挙上映。

- 『隣る人』 刃川和也監督 2011
- 『よみがえりのレシピ』 渡辺智史監督 2011
- 『鬼に訊け 宮大工 西岡常一の遺言』 山崎佑次監督 2011
- 『異国に生きる—日本の中のビルマ人—』 土井敏邦監督 2012
- 『南の島の大統領—沈みゆくモルディヴ』 ジョン・シェンク監督 2011
- 『ニッポンの嘘 報道写真家 福島菊次郎 90歳』 長谷川三郎監督 2012
- 『モンサントの不自然な食べもの』 マリー=モニク・ロバン監督 2008
- 『小さな町の小さな映画館』 森田恵子監督 2011
- 『フタバから遠く離れて』 松橋 淳監督 2012
- 『沈黙の春を生きて』 坂田雅子監督 2011
- 『花はどこへいった』 坂田雅子監督 2007

主催: 浦安ドキュメンタリーオフィス 後援: 浦安市/浦安市教育委員会/浦安市社会福祉協議会 フィルム提供: アップリンク/大秦/ドキュメンタリージャパン/アジアプレス・インターナショナル/シグロ/映画「よみがえりのレシピ」製作委員会/ビターズ・エンド/森田恵子/浦安市郷土博物館 (順不同) 2012年度浦安市市民活動補助金助成事業

都心までおよそ30分。電車一本でさまざまな映画を観られる環境で
なぜ映画祭か。なぜドキュメンタリーか。
自問自答しながら、浦安で二度目のドキュメンタリー映画祭を開催します。
テーマは、前回に引き続き「持続可能な社会を考へる」。
さまざまな切り口で現代社会を見つめる11作品を集めました。
浦安の海に関する秘蔵フィルム上映や映画祭シンポジウムも開催します。
遠い町、遠い国の出来事を、身近に引き寄せて考へる三日間。
歩いて親に行ける、わが町の映画祭です。
寒い中ですが、ご来場を心よりお待ちしております。

よみがえりのレシピ

渡辺智史監督／日本／2011年／95分



©映画「よみがえりのレシピ」製作委員会

大量消費社会の影で、病気に弱い、収量が少ないなどの理由から失われつつある在来作物。山形県内各地に伝わる種を受け継ぎ、今も作り続ける生産者、その可能性を探る料理人や研究者の姿を追った。「生きた文化財」在来作物は、地域再生の起爆剤になるか。

→2011年 山形国際ドキュメンタリー映画祭出品 ほか

①2/10(日) 12:30

②2/11(月祝) 16:40

モンサントの不自然な食べもの

マリー＝モニク・ロバン監督／フランス・カナダ・ドイツ／2008年／108分



①2/10(日)★ 14:30

②2/11(月祝) 12:40

世界の食料支配、それはどんな爆弾より脅威である――。生物の根幹「タネ」を支配し、世界の遺伝子組み換え作物市場の90%を誇るモンサント社。安全を置き去りに利益ばかり追求する「食」の未来は？ クリーンなイメージに隠された巨大企業の真の姿とは？

→2008年 ドイツ環境メディア賞
→2008年 レイチェル・カーソン賞

ニッポンの嘘 報道写真家 福島菊次郎90歳

長谷川三郎監督／日本／2012年／114分



©2012『ニッポンの嘘 報道写真家福島菊次郎90歳』製作委員会

敗戦直後の広島で原爆の後遺症に苦しむ人々、学生運動、自衛隊、水保、祝島と、戦後日本の激動を追い続けてきた。満身創痍で地を這い、権力の風に煽られながら一切妥協しない。未曾有の原発事故を受け、老写真家はやせ細った体で最後の現場フクシマへ向かう。

→2012年 キネマ旬報文化映画ベスト・テン第1位

①2/9(土)★ 15:00

②2/10(日) 14:30

南の島の大統領 ― 沈みゆくモルディヴ

ジョン・シェンク監督／アメリカ／2011年／101分



©Chiara Goia

インド洋に浮かぶ島国モルディヴが、水没の危機に直面している。祖国消滅の事態に立ち上がったのは、独裁政権を打破して就任したナシード大統領だった。若きナシードは、大統領の椅子に深く腰掛ける間もないまま、温暖化の危機を世界へ向けて熱く叫び始めた。

→2012年 サンダンス映画祭 ヒルトンワールドワイド・ライトスティ・サステイナビリティ賞
→2011年 トロント国際映画祭ドキュメンタリー映画観客賞 ほか

①2/10(日) 12:30

②2/11(月祝) 18:45

鬼に訊け 宮大工 西岡常一の遺言

山崎佑次監督／日本／2011年／88分



©「鬼に訊け」製作委員会

飛鳥時代から受け継がれてきた寺院建築の技術の後世に伝えた「最後の宮大工」西岡常一。ガンに冒され、遺された時間と戦いながら若い大工に口伝で技術を授けていた。所縁ある人々の言葉から、千年先へいのちを繋いでいく時間への執念が浮かび上がる。

①2/10(日) 10:30

②2/11(月祝) 18:45

隣る人

刀川和也監督／日本／2011年／85分



①2/10(日) 17:00

②2/11(月祝)★ 10:30

さまざまな事情で親と離れて暮らし「私の全部を受け止めて!」と不安の中で揺れ動く子どもたち。寄り添い続けようとする保育士たち。児童養護施設「光の子どもの家」で紡がれている、平凡だけどかけがえのない日常を丁寧に描いた8年間のドキュメンタリー。

→2012年 文化庁映画賞文化記録映画大賞

①2/10(日) 18:40

②2/11(月祝)★ 12:40

小さな町の小さな映画館

森田恵子監督／日本／2011年／105分



©鈴木翁二

北海道浦河町。人口1万4千人の小さな港町に「大黒座」はある。1918年の創業以来、風雪にさらされながら、どうやって1世紀近くも営業を続けてこられたのか。その謎を解き明かしていく。映画館の暗がりを愛するすべての人へ贈る、北国発の映画讃歌。

フタバから遠く離れて

船橋 淳監督／日本／2012年／96分



©2012 Documentary Japan, Big River Films

福島第一原子力発電所の事故で、双葉町の住民1400人が250km離れた埼玉県の高校に避難。現代のノアの方舟のごとく、町全体が丸ごと移転し、避難生活が始まった。かつて原発で潤った町の盛衰と、突然故郷を失った住民の日常を9カ月にわたり映し出していく。

→2012年 ベルリン国際映画祭出品 ほか

①2/10(日)★ 18:40

②2/11(月祝) 10:30

沈黙の春を生きて

坂田雅子監督／日本／2011年／87分



©2011 Masako Sakata/Siglo

ベトナム戦争時、アメリカ軍が散布した枯葉剤には、猛毒のダイオキシンが含まれていた。『花はどこへいった』に続く監督作品第二弾は、枯葉剤の刻印を背負ったベトナム・アメリカ双方の子どもたちの困難と勇気を描くとともに、化学物質の危険性を問う。

→2012年 文化庁映画賞文化記録映画優秀賞
→2012年 地球環境映像祭子どもアース・ビジョン賞

①2/10(日) 10:30

②2/11(月祝)★16:40

花はどこへいった

坂田雅子監督／日本／2007年／71分



©2007 Masako Sakata

ベトナム従軍経験を持つアメリカ人の夫の死を機に、妻である坂田雅子がベトナムへ飛び、枯葉剤被害の実態を追う。戦後30年を経てなお大地と人々が蝕まれているベトナムの現状と、夫への追憶を交差させ、反戦と平和への願いを描く。

→2009年 毎日映画コンクール・ドキュメンタリー映画賞
→2008年 パリ国際環境映画祭審査員特別賞 ほか

うらやす
ドキュメンタリー・テーク
アンコール
上映作品

2/11(月祝)★15:00

異国に生きる―日本の中のビルマ人

土井敏邦監督／日本／2012年／100分



©土井敏邦

21年間日本で暮らすミャンマー(ビルマ)民主化運動のリーダー・チョウチョウソウ。祖国の情勢と、それに呼応する在日ビルマ人の動きを織り交ぜながら、日本で政治難民として生きるチョウとその妻の生活をカメラは追う。今春の劇場公開に先駆けたプレミア上映。

★の回はゲスト来場予定(上映終了後にトークイベントを開催)

関連企画●〈無料〉 2/10(日) 17:00
映像を通して知る「海苔のまち浦安」

埋め立て前の浦安の海で、海苔養殖の光景を収めた貴重な記録フィルムを特別上映(1961年/20分/サイレント)。海苔関係者、浦安市郷土博物館学芸員などのゲストを予定。

公開シンポジウム●〈無料〉 2/11(月祝) 15:00
なぜドキュメンタリー映画祭を続けるのか?

産声をあげたばかりの「うらやすドキュメンタリー映画祭」。集客が見込めないといわれるジャンルで、長年、地道に映画祭を続けている先駆者を招いたディスカッション。映画祭ははたして持続可能? 〈ゲスト〉藤崎和喜氏(メイシネマ代表)・飯田光代氏(優れたドキュメンタリーを観る会代表)・森田恵子監督(『小さな町の小さな映画館』)



半世紀前の浦安・境川の風景
(映像を通して知る「海苔のまち浦安」)